

暮らしの瓦版

2010年08月号

地球にやさしい快適「エコ住宅」(5)

【省エネ対策と自立循環型住宅】

家庭で消費されるエネルギーのうち、暖房用が大半だと思われている方が多いのではないのでしょうか。実は暖房の割合は1/4しかなく、暖房が約24%、給湯・調理が約35%、照明・家電が約41%と照明・家電が一番大きいのです。しかしこのデータは、南関東から九州までの地域でのことで、北海道・東北などではやはり暖房の割合が、沖縄などの蒸暑地域では冷房の割合が、大きくなっています。給湯が暖房より多いのは日本人の風呂好きが表れているといえます。給湯の省エネは給湯設備の高効率化だけでなく、浴槽と配管の断熱化、節水型水栓使用ということまで含めた総合的な視野が必要です。給湯設備の高効率化で注目されているのが、ガスでは潜熱回収型給湯器(エコジョーズ)、電気では自然冷媒ヒートポンプ式電気給湯器(エコキュート)や太陽熱温水器です。また、電気とお湯の両方をつくることで効率を高めるのが、コージェネレーションシステム。これにはガスコージェネレーション(エコウィル)や燃料電池コージェネレーション(エネファーム)があります。照明の省エネでは、白熱灯代替の蛍光灯や、LED照明が注目を集めています。家電の消費で大きいのは冷蔵庫、テレビ、暖房便座です。冷蔵庫は高効率のものが、テレビは低電力のものが求められ、メーカー間で激しい開発競争が繰り広げられています。暖房便座も省エネ製品はありますが、冷蔵庫やテレビと異なる点は家が暖かければ不要だということです。家全体を暖かくする欧米では暖房便座はありません。暖房の省エネでは、断熱・気密を高め、暖房器具の効率を高める他、冬は日差しを取り込み、夏は風を入れるという自然の恵みが重要です。

南関東から九州までの温暖な地域では、一軒の家庭が年間に消費するエネルギーはおおよそ80GJ。これに対して、高断熱・高气密に取り組み、高効率設備機器及び省エネ家電製品を採用すると半分以下の40GJ以下までに削減できると考えられています。そして、太陽光発電4kW分を設置すると約40GJのエネルギーを創り出すことができ、使用するエネルギーと創り出すエネルギーが等しいゼロエネルギーが可能になります。このような省エネ設計を進めていく住宅を、国交省では自立循環型住宅と呼んでいます。

*GJ(ギガジュール)は10億kcal。エネルギー・熱量・電力の単位



季節のことは「ナイチンゲール」



フロレンス・ナイチンゲールは1820年フイレンツェ(フローレンス)で生まれ、1910年8月13日、90歳で亡くなりました。今年、没後100年にあたり、英国の看護師であり、統計学者、看護教育者。近代看護教育の生みの親。病院建築でも才能を発揮しました。1854年にクリミア戦争が勃発すると、自ら志願して38名の看護師を率い従軍。「クリミアの天使」とも呼ばれました。看護師を「白衣の天使」と呼ぶのは、ナイチンゲールに由来します。

生活 物の事始め

『八月が三十一日(September)』

太古の時代、人々は暑い日が続く時期と、寒い日が続く時期があることを経験的に知り、その暑さ寒さが一定の周期で訪れること、その周期と星の位置が連動していることに気付く。「年」という概念が生まれ、また海で漁をする人々は、海の満ち引きが月の運動と連動していることに気付く。「月」の概念が生まれました。暦は太陽暦・太陽暦・太陽暦・太陽暦・太陽暦に分類できます。太陰暦は、月の運行によって暦を定めるもので、イスラム暦がそうです。太陽暦は太陽の運行だけによって暦を定めるもので、現在の世界共通暦グレゴリウス暦などがそうです。太陰太陽暦は、年と太陽の運行に合わせ月、月の運行に合わせるという折衷タイプで、日本の旧暦がそうです。

現在世界共通で使用されているグレゴリウス暦は16世紀の法王グレゴリウス13世が定めたもので、その起源はローマの暦です。ローマでは当初1年が10ヶ月の暦が使われていました。これは農業のために作られた暦で、現在の3月が年初で12月が年末。残りの約60日は農作業ができないので「暦のない日々」でしたが、やはり1年を通して暦はあるべきだという考え方が生まれ、現在の1・2月が追加されました。後から追加されたので、多くの人がそれは12月の後に付いているものと考えていました。現在の暦の原型を作ったのはローマの独裁官ユリウス・カエサルで、この暦をユリウス暦といいます。彼はまず1年の長さが約354日であることから、平年は365日、閏年は366日とし、3年平年を続けて1年閏年を置くという方式を決め、そして各月の長さを奇数月は31日、偶数月は30日としました。2月は、閏年は30日、平年は29日としました。2月を調整に使うのは1年の最後の月であるという認識があったからです。更にカエサルは年の初めを1月に決めました。この暦を定めた上で、カエサルは記念にと自分の誕生日である7月にユリウス(英語名ジュライ)と自分の名前を付けました。カエサルが暗殺された後、この暦は誤って運用され、3年平年のあと1年閏年というペースのずれが生じ、3年に1度閏年を入れてしまいました。カエサルの後、初代ローマ皇帝になったアウグストゥスはこの暦の運用の誤りに気付く、調整。彼は暦に関わったことでカエサルにならって自分も月の名前に自分の名前を付け、8月をアウグストゥス(英語名オグスト)と改名、日数も1日増やし31日にし、そのあと1個ずつずらしてしまいました。8月で1日増やした分、仕方なく、また2月から1日取り、2月は平年で28日、閏年で29日になりました。アウグストゥスが暦を定めてから500年後、ユリウス暦の1年の長さが不正確(カエサルは1年を354日としましたが本当は365日)であったため、この差を問題視したローマ法王グレゴリウス13世は、暦の運用規則を改め、基本的に4で割り切れる年は閏年にする(ユリウス暦の規則)、しかし100で割り切れる年は平年とする(追加)、しかし400で割り切れる年は閏年とする(追加)。このグレゴリウス暦は世界中で徐々に採用され、日本も1873年に採用。今では世界標準となっています。

生活 季節の言葉

『八月四日 箸の日』

8月4日は「箸の日」。箸を正しく使おうという民俗学者の提唱で、1975年に制定。東京・千代田区の日枝神社では、神前に長さ1Mの大きな箸を供え、古い箸を焼く箸供養祭が行われます。近年、エコロジーの考えからマイ箸を持ち歩く人が増え、また、弁当ブームもあり、持ち歩き用の箸がよく売れているとも聞きます。箸は日本人には無くてはならないもの。そのため、正しい使い方や昔からのタブーというものが存在します。大人がきちんと身につけて、子供達に伝えたい日本の文化です。

【正しい持ち方】①右手で箸の中央よりやや右あたりを上から取り上げる②左手で下から軽く支えるように添える③右手を右方向に静かにすべらし、下に回して持ち替える④左手を離す ※割箸を割る時は、体の正面で、テーブルに平行に持ち、上下に割る。

【正しい使い方】側の箸を薬指と親指で挟むようにしっかりと固定、上の箸を人差し指と中指と親指の先で軽く挟みます。食べ物をつまむ時は中指と人差し指二本で箸を動かす、親指は添えるだけ。この時両方の箸を動かさず、上の箸だけを動かします。食べる時は箸先1.5〜3センチを使います。

【箸使いのタブー】迷い箸(どの料理を食べようかと箸を持ちながら器の上で行ったり来たりすること)・舐り箸(最初に箸を舐める、又、箸に付いた料理を舐め取る)・渡し箸(他の人に料理を渡すとき、互いの箸と箸とでつまみ合いすること)・握り箸(右手で箸を二本揃えて握り、また同時にその手で器を持つこと)・刺し箸(煮物などの料理を突き刺して取る)・指し箸(箸を持った手で人を指すこと)・寄せ箸(箸を使って器を引き寄せたり、動かしたりすること) 他にも2人箸、探り箸、移り箸、涙箸、込み箸、合せ箸、くわえ箸、たて箸、等あります。

「ユースオリンピック」

14~18歳の選手を対象にしたオリンピック大会。2007年7月にアテネで開かれた国際オリンピック委員会(IOC)総会で開催が決定しました。本大会を通じて教育に重点をおき、友情や健全な肉体、社会とのかかわりなどオリンピックのもつ価値を若者たちに伝えるのがねらい。第1回夏季ユースオリンピックは今年シカゴで、冬季は2012年にイギリスで行われる予定。4年に1度、1週間~10日前後の期間で開催され、実施種目はオリンピック種目を基本に夏季は3000人、冬季は1000人を超えない規模とすることにしています。記念すべき第1回の夏季ユースオリンピックは今年8月14日~26日、170国、2,500名、競技種目数26競技を予定しています。暑い夏、若者たちの熱い祭典が始まります。

修繕 リフォームから新築工事の建物の事
 優良土地活用から物件探索の土地の事
 北本建設株式会社
 埼玉県北本市古市場 3-131 TEL: 048-591-1234
 URL: http://kitaken1970.com FAX: 048-591-0019

8月 暮らしのカレンダー
 葉月、秋風月、雁来月、観月、建西月、木染月、牡丹、竹春、仲秋、月見月、燕去月、紅葉月
 6日 広島平和記念日、広島原爆忌 13日 お盆迎え火
 7日 立秋 15日 終戦記念日
 9日 長崎原爆の日、長崎原爆忌 23日 処暑
 *8月の夏祭り
 青森ねぶた祭り/竿燈まつり/仙台七夕/よさこい祭り/阿波踊り/群上おどり